

★ アンケート回収数は、児童393名、保護者202名、教職員22名である。
 ★ 回収したアンケートのうち、評価項目によっては無回答の場合もあるため、評価(A～D)は集計した実数ではなく、割合(%)で示している。
 ★ 平均、総合評価は、比較しやすいように4点を最高として示している。 《平均》 (4点×Aの回答数 + 3点×Bの回答数 …) ÷ 回答総数

1 知恵いっぱい (学び)

(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない)

	評価項目	評価							学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均	総評		
1	先生は、一人一人の子どもに対して分かりやすい授業を行っている。	児童 保護者 教職員	38 44 19	42 43 81	14 12 0	6 1 0	3.1 3.3 3.2	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の分かりやすさについては、児童・保護者の回答及び教職員の自己評価を昨年度のものと比較すると0.1～0.2P低くなっている。CRTなどの結果を見ても、昨年度よりもどの学年も結果が低くなっている。児童の学習へ向き合う姿勢をよくするための指導の在り方や授業づくりに向けて、学校全体で新たな取組を考えていく必要がある。そのための関係機関との連携も重要である。 ○ 昨年度と評価のポイントは変わっていない。本年度も、教職員によって取組に差があったので、それを教職員が同じように取り組んでいくことと家庭への啓発を促していくことが必要であると考えている。 ○ 学習習慣の定着については、教師の自己評価は高くなっているが、保護者の評価が低くなっている。1の「授業のわかりやすさ」の評価との関連もあるが、学力を向上させるためには基本的な学習習慣の定着はかかせないので、学校全体で意識化及び実践の徹底を図っていくことが喫緊の課題である。 ○ 家庭学習に関しては、保護者、職員の評価が0.1P低くなっている。概ね良好な評価をいただいているが、取組の個人差は大きい。次年度は学力に直結する家庭学習の在り方を模索していき、家庭の協力をいただきながら実践に結びつけていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍により教師と児童のコミュニケーションが、以前と比べて減っているように思うので、今後は改善していけると思う。 ○ 児童・職員の自己評価の低下と学力の低下が連動していると感じた。日々先生方も努力しているとは思いますが、子供たちが分かった、楽しいと思える授業をお願いしたい。 ○ 学習のきまりをしっかりと守れる子どもに育ってほしい。そこが基本だと思う。
2	学校は、本に親しみ、読書習慣を定着させるための、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	32 43 11	31 45 63	18 12 26	19 0 0	2.8 3.3 2.9			
3	先生は、学習中の姿勢や発表の仕方など、望ましい学習習慣の定着のために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	20 49 10	38 43 90	32 8 0	10 0 0	2.7 3.4 3.1			
4	先生は、宿題や宅習など、日々の家庭学習への適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	64 50 15	23 38 70	9 11 10	4 1 5	3.5 3.4 3.0			

2 心いっぱい (豊かな心)

	評価項目	評価							学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均	総評		
5	学校は、元気なあいさつや会釈について適切に指導している。	児童 保護者 教職員	47 56 24	38 38 67	11 6 9	4 0 0	3.3 3.5 3.2	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度と比較すると、児童は0.1P、職員は0.4P評価が高くなっている。「親子であいさつ登校」を含めた取組が成果につながっていると感じる。今後は、これを継続していくとともに、学校で取り組んでいることを地域に広げていながら学校・家庭・地域でのあいさつ向上に取り組んでいきたい。そのための関係機関との連携も図っていききたい。 ○ 本年度も無言清掃が概ね実施できている。また、高学年の児童が始業前の奉仕活動に勤しむなど校内美化に取り組む姿も見られる。このことから昨年度同様評価は、高い。一方で教室によっては整理ができていなかったり、落とし物が多かったりするので、普段からの児童への指導の徹底を図っていききたい。 ○ 昨年度からすると児童と職員の評価が0.1P～0.2P高くなっている。しかし、トイレのスリッパが並んでいなかったり、廊下を走ったりする児童は、まだ散見される。廊下歩行については大きな事故につながるため、これまで以上に全職員でのその場での厳しい指導とともに褒めることを、学校全体が一丸となって継続的に指導していく。 ○ 児童、保護者の評価が0.1～0.2P低くなっている。日常的に心ない言葉や悪口などが時折見られ、トラブルも多くなっている結果からも伺える。そのような児童が少しでも減るように今後も児童同士、児童と教師を軸とした人的環境づくりやいじめの早期発見及びこまめな保護者への連絡に努めていくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年への思いやりあいさつができる登下校時の安心感ができると思います。高学年が黙って素通りで追い越しています。軽い声かけを期待します。 ○ 親子で挨拶登校、良い取組だと思います。親の挨拶する姿を見て、子どもは自分の自信につながると思います。私自身先出し挨拶を心がけていきたいと思っています。 ○ コロナ禍により、児童間のコミュニケーションも以前と比べて減っていると思うので、今後改善していく余地があると思う。「あいさつ運動」の取組も今後引き続き取り組んでいきたい。 ○ 学校運営協議会で決まったあいさつ登校が良い評価につながったのは良かった。 ○ 直接いじめや差別につながらないと思いますが、子供たちの言葉遣いが気になります。年上に対する呼び捨て。「お前」「何々しろ。」などという荒っぽい発言が目立ちます。
6	学校は、無言清掃が定着し、環境美化が行き届いている。	児童 保護者 教職員	41 45 33	40 45 67	14 10 0	5 0 0	3.2 3.4 3.2			
7	学校は、返事やくつ(スリッパ)並べ、正しい廊下歩行など、基本的な生活習慣の定着に向けて、適切に指導している。	児童 保護者 教職員	43 54 29	36 41 67	17 5 4	4 0 0	3.2 3.6 3.2			
8	学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。	児童 保護者 教職員	69 41 40	26 46 55	4 9 5	1 4 0	3.6 3.2 3.3			

3 汗いっぱい (健康・安全)

門川町立門川小学校 (NO. 2)

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント	
		対象	A	B	C	D	平均			総評
9	学校は、運動に親しみ、体力向上をさせるための適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	60 48 16	25 43 68	11 8 16	4 1 0	3.4 3.4 3.0	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度とそれほどかわらない評価であった。しかし、体力テストの結果を見ると、どの学年でも体力の低下が見られる。体育科の授業改善を軸として、普段からの運動の習慣化を浸透させ、体力向上を図るための具体的方策について工夫・改善していく必要がある。また、関係機関の協力も仰いでいく必要がある。 ○ 昨年度と比較すると職員の評価が0.2P高くなっている。生活リズムカードを見ると早寝・早起き・朝ご飯については、徐々に改善が図られてきているが、メディアについての意識は昨年度同様低い傾向にある。次年度はICTに関するモラルも含めて、学校・家庭においてメディアコントロールの啓発ができるような取組を実施していきたい。 ○ 昨年度と比較すると保護者、職員の評価が0.1~0.2P低くなっている。給食センターになり、準備の仕方や献立等の変化によるものと推察される。今後もこれまでの給食指導の徹底や弁当の日等の実施を継続していきたいと考える。 ○ 昨年度と比較すると保護者、職員の評価が0.1~0.2P高くなっている。下校時避難訓練や親子であいさつ登校の際の安全点検等によるものと推察される。地域の安全見守り隊の方々との連携によることもとても大きい。ただ、児童の意識は低くなっているため、自分の命を守る意識を育むための取組を考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍により外で遊ぶ機会やスポーツをする機会が減少している。 ○ 体力の低下の問題ですが、外でボール遊びができる環境が少ない。公園では、ボール遊び禁止というルールがあり、球技スポーツの経験ができていないと思います。 ○ メディアコントロールについては、形は変えながらずっと、課題としてあがっている。最近は、タブレットを使ったり、持ち帰らせたりしていると聞く。大事なことだと思うが子供たちが危ないサイトへいかないように心を育てることと制限をかけることも必要だと思う。 ○ 昨年度から避難訓練についても学校運営協議会で話し合ってきたが、その成果が評価として上がっているのは良いと思う。地域で守ることも必要だが、自分の命は自分で守る意識付けも必要である。
10	学校は、生活リズム(早寝・早起き・朝ご飯)を身に付けさせるために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	48 51 0	30 41 60	16 7 40	6 1 0	3.2 3.4 3.0			
11	学校は、給食指導や弁当の日の実施など、望ましい食習慣の定着に向けて、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	66 59 15	21 37 85	9 3 0	4 1 0	3.5 3.5 3.2			
12	学校は、避難訓練や交通安全教室を通して危険から身を守る態度の育成について、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	60 68 37	31 30 63	7 1 0	2 1 0	3.5 3.7 3.4			

4 連携等

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント	
		対象	A	B	C	D	平均			総評
13	学校は、地域の人材を生かしたふれあいや体験活動を積極的に行い、キャリア教育の充実に努めている。	児童 保護者 教職員	62 48 32	27 42 63	8 9 5	3 1 0	3.5 3.4 3.0	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少しずつではあるが以前のように人材を活用した学習や体験活動を各学年単位で、取り組めるようになってきた。本年度は特に地域の高校である門川高校との交流(児童の学習や行事、家庭教育学級)を多く実施できた。評価を見ると、児童は、高い充足感を味わっているため、今後も工夫した取組の実施を考えていくとともに学校支援地域本部との協力を充実させていきたいと考える。 ○ 昨年度と比較すると0.1Pずつ低くなっている。総会や学級懇談会等が実施できなかったことが大きく関係していると推察される。学校便りやお知らせ文書、マチコミメール等を活用して、できるだけ学校の情報を分かりやすく伝えた。ただ、保護者の中にはICTをさらに活用することの要望もあったので検討していきたい。また、様々な機会や方法で、学校の取組や児童の活躍等についてアピールするとともに、行事計画や連絡事項の確実な伝達に努めていくことが大切であると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍により、学校と保護者とのコミュニケーションの機会が減少している。
14	学校は、教育目標や課題、必要な情報等を、PTA総会や学級懇談会、学校だより等を通して、分かりやすく発信している。	児童 保護者 教職員	— 51 22	— 39 66	— 9 6	— 1 6	— 3.4 3.0			

5 その他(学校運営協議会委員より)

門川町立門川小学校 (NO. 3)

<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍になって3年が経過し、いろいろな場面で影響が出てきているように感じる。コロナ禍以前通りのことをやる必要は無いと思うが、時代に合わせて改善していけば良いと思う。

6 次年度への改善について

<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のきまりや学び方を身に付けることの徹底を行うとともに授業が楽しいと思えるような授業づくりを心がけていく。 ○ 学校・家庭・地域が連携したあいさつに対する取組を実施していく。 ○ いじめや差別を生まないための正しい言葉づかいを徹底していく。 ○ メディアの在り方を家庭で話し合える土壌づくりを考えていく。(メディアとのじょうずな付き合い方を考える) ○ 新型コロナの対策が緩和されるのにあわせて、先生と児童とのコミュニケーションの増加や地域との連携の強化、保護者との意見交換の機会が増加するような機会を増やしていく。
